

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	平成23年9月12日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470600368&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 10 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、自然豊かな環境に恵まれ鳥のさえずりが聞こえ、清らかな風が吹く心地よい広大な敷地内に在り、利用者様はホームの周りにある遊歩道の散歩を日課として楽しく過ごして頂いています。このすばらし環境のもと、「和顔愛語」の理念で接するよう日々努力をしています。利用者様、ご家族様が安心して生活ができるよう毎年「事業計画書」を作成しその実現に取り組んでいます。また入居者の皆さんは認知症の症状が顕著になってきていますし、ADLの低下も進んできています。今こそ確り認知症の理解を深め、利用者の心に寄り添った支援が出来るよう学ばなければならないと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小鳥のさえずりが聞こえ、木立の緑に抱かれているような自然豊かな環境に位置しているグループホームである。ショートステイを併設した明るい色調の4階建の建物はゆったりとした雰囲気を出している。認知症介護の深い知識と豊富な現場経験を持ち、利用者・職員に全幅の信頼のある管理者のもと基本理念『和顔愛語』を共有し、その人の尊厳を守り、恒にやさしい言葉、和やかな笑顔で心掛け暮らしの支援を行っている。『毎朝、伊勢湾に昇る朝日に感謝して手を合わせるの』と自室に招待して下さった利用者を見守る職員の眼差しは優しく、会話はとても穏やかであった。毎日、広大な敷地の遊歩道を散歩したり、パーベキューハウスでの地域との交流など楽しみごとも多く、『母がここで暮らすようになって元気になった』と家族からも感謝の声が多く届いている笑い声の絶えない、心安らげる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然に身をもって理念が理解できるよう図る。報連相会において共有の確認に努めている。	開設時からの理念『和顔 愛語』の心を大切にして『報連相会 毎週火曜日(1:30~2:30)』などで共有し、実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として自覚を持ち、交流を心がけ理解が深まるよう努めている。	星ヶ丘地区の一員として、自治会に入会し、清掃活動にも参加している。日々の散歩時に地域の中学・小学生と挨拶などの交流に努めている。地域の方々に事業所の夏祭りの踊りなどに参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常業務に追われ、地域の人々への支援は十分に果たされていないのが実情である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者のご意見、感想など参考に広い視野に立った柔軟なサービス、運営を心がけている。	近隣は若い団地であるため、あまり住民の参加は得られていない。運営推進会議は3ヶ月に1回ぐらいの開催である。現在2ヶ月に1回の開催を準備中である。	運営推進会議は外部の人々の目を通して、事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合ったり、地域の方々の理解と支援を得るための貴重な機会として、2ヶ月に1回の開催が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新申請時や相談時などの機会を利用し指導、協力が得られるよう努めている。	困難ケースを通じて、市役所の援護課とは密に連絡して、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の理解、実践が出来るよう取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、管理者から職員にきちんと方針を伝えている。また職員自身が身体拘束と言葉の拘束の弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止と同じで、理解、実践が出来るよう徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度があることに関心を持っている。制度を学ぶ機会を増やせるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族の不安、疑問が残らないよう十分説明を行い契約をしていただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など気軽に意見が伺えるよう努めている。	家族の訪問の多い事業所である。家族の訪問時に担当者や職員に何でも話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望はサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報連相会において、職員の意見、代表者との毎週の会合で意見交換が持てるよう努めている	報連相会・リーダー会議・フロア会議や毎日の申し送り時(8時30分～)(17時～)で管理者は職員からの意見や提案を聴く機会を設け、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の点検を行い、職員が職分を全うできるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、内外の研修参加の機会を作り意欲の向上に努めている。ヘルパー2級資格についても希望者に資金援助を行っておりレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム、高齢者施設の見学を行ったりしながらサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や入居申し込み時を通じて、ご要望を確認し安心が得られるまで話し合う機会を持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の不安、希望など傾聴に努め、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と連携を図り適切なサービスが支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も思いを共有することで、信頼関係が築かれる。心を知ることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えあう立場に立って適切な支援ができると思うので取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い出を大切に途切れないよう、つないでいけるよう支援に努めている。	併設のショートステイ利用の知人の訪問、檀家訪問、家族と食事やホテルでの宿泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に気の合う人が、それぞれにあります。よい関係が築かれるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係を大切に支援を希望されれば対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞き出すことが困難な場合、家族の意見も聞き話し合いながら取り組んでいる。	日々の散歩時や入浴時に利用者一人ひとりの希望や思いの把握に努めている。	本人の意思を尊重して、ゆとりのある暮らしの支援を行っているが、本人が自分らしく暮らし続けることをチームで支えるための共通のツールとしてセンター方式のシート1枚からでも気楽に使用されることが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に把握しているが、入居後日々接する中で、気が付くことがある。本人、家族と情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の変化を見逃すことがないように注意深く見守りをするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、家族が会することの困難な場合が多いので、面会時に意見を聞くなどして現実に即した立案に努めている。	家族・本人・職員の意見を入れて現状に即した介護計画を管理者が作成し、随時の見直しや3ヶ月ごとに現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を作成している。勤務交代時の申し送り、気が付いたところや様子を記入し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、出来る範囲でご希望に添えるよう取り組んでいる。想定されるサービスについて検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの協力を得ながら支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームの協力医との関係を密にし、緊急時を含め対応に努めている。受診時は職員も同席し状況説明や指示ももらっている。	家族・本人の希望を大切にして医療機関のかかりつけ医や協力医受診を支援している。(2週間に1回の往診もある)利用者一人ひとりが適切な医療を受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置していないが、協力医と相談、指示が取れる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の協力により、入院の手配などられ利用者は安心して治療が受けられる体制にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医を交え、家族と話し合いを持ちながら理解が得られるよう努めている。	現時点では医療的行為ができないので、利用者の状況の変化に応じて、家族と繰り返し話し合い、事業所が出来ること出来ないことを伝えて段階的に合意をとりながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え緊急時の対応に備えている。急変時の対応についても本、資料等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全で使いやすい担架を配置している。消防署と連携を図り訓練の指導助言をいただいている。地域の方にもご協力をお願いしている。	現在 スプリンクラーを設置中である。年1回は消防署と連携して火災や地震などの災害時の避難訓練を行っている。また担架やAEDを設置して訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室でありプライバシーは保たれている。職員には個人情報に注意するよう指導している。退職後も個人情報を守るよう義務づけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないように、さりげなく、穏やかな言葉かけや話しかたを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを図る中で、自己決定が出来るよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを把握し、その人らしさを大切に乱すような事がないように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じて取り組んでいる。話し合いながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや後片づけをいただいている。外食に出かけ皆で楽しめるように取り組んでいる。	各ユニットともにオープンキッチンである。匂いや音などで五感を刺激して食事が楽しみなものになるように工夫している。昼食時は優しい音色で懐かしい童謡が流れていた。職員の工夫の美味しい味付けで、みなさん美味しい美味しいと全部召しあがれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分量の確保に気を付けている。調理についても柔らかく、食べやすく、塩分の取りすぎに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りをしながら口腔ケアに取り組んでいる。治療の必要な方には歯科医の往診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、いつでも自由に落着いて利用できる。排泄の記録を取り自立に向けた支援の方法を工夫している。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、食事や水分補給を行い、便秘が続くようであれば協力医の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後となっていますが、個々の状況によってその都度対応しています。	浴室は外気が入る大きな窓があり、ゆったりと入浴できるつくりである。季節に応じて菖蒲などで入浴を楽しめるように工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なじみの寝具を持ち込んでいただいたり、本人の体調を考慮しながら、静かな環境を提供し良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況について把握に努めている。協力医、薬剤師の指示に従いながら誤りのないように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しめるよう支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を日課にしています。お花見、外食等できる範囲で外出支援している。	自然に恵まれた環境を活かして、日常的に散歩はよく行っている。また、季節の花(紫陽花・梅・藤など)の観賞や外食など利用者一人ひとりの希望に添って戸外へ出かけられるように工夫して支援している。外出できにくい利用者も居室ベランダから、眺められる津市の花火大会など楽しみごとの多い事業所である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの管理能力に差があるため、個々に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、家族の意見を考慮し、電話やFAXを利用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は狭いが、利用者の方の作品を掲示したり、落ち着いて過ごしていただける空間を作っている。	青山高原が望める窓のある共有スペースは明るく優しい風が流れ、安らぎの空間になっている。廊下もゆったりしており随所に生活感や季節感を取り入れて居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は狭いが、気兼ねなく自由に過ごしていただけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使用していただき、自宅で使っていた物やなじみの品を持って来ていただいている。設備面も床暖房やトイレを設置している	各居室から伊勢湾や青山高原の風力発電などの風景が広く望め、ベランダに自由に出入りできるとも開放的な空間になっている。トイレや洗面台の完備された居室は掃除が行き届いている。また居心地よく過ごせるように利用者一人ひとりの馴染みの仏壇・筆筒やいすが置かれ、安心して過ごせるような工夫や配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の能力に応じ支援している。また、自立した生活が送れるよう配慮している。		